

大阪の童謡

浪花の子守

何處にもある童謡と云ふものを少し研究いたして見たひと存じまして集めました。所が中に大阪

の色彩を帯びたものも少なく御座いませんから他地方會員のお笑草に記載いたし御高覧に供しま

す

一、動作なしの部

一、朝はよ起きて寺町見れば海のないのに蛸がゐる。

二、郵便屋走りんか。もう。かれこれ十二時や。

三、行きしな運動會もどりしな。しんどう會。

四、雨が。チヨボ／＼降る晩に。まめだが（狸の

事）徳利持つて酒買ひに。

五、先き行くもの酒屋の丁稚。あとから行くもの

狼狐。

六、天狗さん。もつと風吹いてんか。あまつたら返す。

七、一けん二けん三けん試験に。まけて落第坊主

（悪口）

八、お多福三福風が吹いたら、よ福。

九、大文字屋。おーはいり。頭が大きて。はいられん。横になつて。おーはいり。横になつたら。

こける。裏から廻つて。おーはいり。裏から廻たらはいられん。

十、烏カア／＼。かかのうち。やけた。はよ。いんで。水かけ。

十一、もー。いんで。こうよ。又あした。こうよ。

十二、喧嘩はおやめ。角力はおとり。

十三、坊主ぼつたい。はりぼつたい。（悪口）

十四、まねし。萬歳米貰ひ。一日あるいて。米一

升。

十五、まんかんさん。とうこへいく。ちよびいく。

はーまん。はーまつた。親の云ふ事きんかんさん。

十六、五厘の。どんぐり目。

十七、おかん。こうり。つめたひ。こうり。こた

つへ。あたつて。ぬーくひ。こうり。

十八、正一いなり。大明神。お稻荷さんの事なら。

どこまでも下略(初午の際はたを持ち歌ふ)

十九、こうもり。来い。あんどに。かくれて。

傘きてこい。

二十、お月様いくつ十三一つ。そりや。まだ若い

な。こんど。京へ。のぼつて。まもりの。せい

でおまんを。買つて。其おまん。どうした。(子

供の名)花ちゃん。たべて。しもた(これは

まだ種々あり)。

二十一、天神橋は。長いな。おちたら。こはいな。

二十二、あほに。ほがない。船に帆がある。ぱつ

ちに。底ない。船に底ある。

二十三、めくらーの。通り道。子供が。ゐてたら

のいてんか。

二十四。とつてん。かつちん。鍛冶屋の子。ぬく

く。ポツポテ。芋屋の子。

(つゝ)

躰方の準的

(神戸市保育會に於ける講習の一節)

文學士 檜崎淺太郎

編者言ふ。神戸市保育會にては昨年四月より毎月一回乃至二回、京都より檜崎文學士を聘して心理學及教育學上の講義を

乞ひ、聽講者に最深大なる興味と利益とを興へられつゝあり此の『躰方の準的』は其の講義中の一部を神戸幼稚園保母前出